

他事業におけるトラブル事象について

(他事業の監視会議等で報告されたもの<平成24年1月～平成26年6月>)

事業名	発生年月日	件名	概要
豊田	平成24年7月11日	タンクローリーからのSD受入時に圧抜き管からSDが漏洩	弁操作を誤ったため、SD（金属ナトリウム分散体）の送液時に防液堤内で漏洩（約230リットル）
	平成24年9月12日 （9月13日判明）	管理目標値を超えるおそれのあるベンゼンの排出	排気中のベンゼンを吸着する活性炭槽のバイパス弁を誤って開放したため、管理目標値（50mg/Nm ³ ）を超えるおそれのあるベンゼンを含む排気ガスを排出
	平成25年8月15日	真空加熱B炉の油回転真空ポンプ配管から潤滑油が漏洩	作業者が通行時に配管に接触したことにより同配管に亀裂が生じ、潤滑油が室内漏洩（約1リットル）
東京	平成24年1月15日	低濃度施設における絶縁油サンプリング装置から漏洩	サンプリング弁のパッキンの劣化により低濃度PCB液が室内漏洩（約20リットル）
	平成24年2月29日	コンデンサ予備洗浄系統排気オンラインモニタリングPCB濃度高高	活性炭の性能低下によるPCB濃度上昇のためインターロックが作動
	平成24年3月24日	コンデンサ予備洗浄系統排気オンラインモニタリングPCB濃度高高	鉄心コイル破砕機内で突発的にPCB濃度の高い排ガスが発生したためインターロックが作動
	平成24年4月19日	コンデンサ破砕排気オンラインモニタリングPCB濃度高高	サンダーを使用して鉄板に付着した紙の除去作業中、高濃度PCBガスが発生したためインターロックが作動
	平成24年4月22日	大型トランス解体時の絶縁油漏洩	絶縁油拔出時に内部の異物により抜油弁が詰まり、油が残留した状態で解体したため絶縁油が漏洩（約80リットル）
	平成24年7月24日	空加熱カゴが台車から落下し右足首負傷・骨折	空の鉄製加熱カゴ（重量105kg）が運搬用台車から落下し、右足首負傷・骨折
	平成24年8月8日 （9月20日判明）	排水中DXNs分析結果の自主管理目標値超過	敷地内の最終放流枡における排水サンプリング分析の結果、協定に基づくダイオキシン類の自主管理目標値5pg-TEQ/lを超える5.6pg-TEQ/lであったことが判明
	平成24年8月23日	コンデンサGB系排気オンラインモニタリングPCB濃度高高	コイル破砕時に高濃度PCBガスが発生、当該活性炭の破過時間が短縮したためインターロックが作動
	平成24年10月30日	コンデンサ破砕排気オンラインモニタリングPCB濃度高高	木材破砕機から高濃度PCBガスが発生したためインターロックが作動
	平成24年11月16日	コンデンサ破砕排気オンラインモニタリングPCB濃度高高	鉄心ブロックをセーバーソーで切断時に高濃度PCBガスが発生したためインターロックが作動

事業名	発生年月日	件 名	概 要
東 京	平成25年2月14日	トランス破碎系局所排気オンラインモニタリングPCB濃度高高	超大型トランスを大型五面加工機で切断時に高濃度PCBガスが発生したためインターロックが作動
	平成25年6月27日	コンデンサ解体設備内のモノレールクレーンに接触し左足負傷	ケーブル敷設作業中に、モノレールクレーンに接触し、左足を負傷
	平成25年11月23日	トランス破碎系局所排気オンラインモニタリングPCB濃度高高	中型トランス付属の窒素タンクをセーバーソーで切断時に高濃度PCBガスが発生したためインターロックが作動
	平成26年1月10日	水熱酸化分解設備の配管からの水蒸気噴出	水熱酸化分解設備室に3基設置されている水熱反応器のうち1基（No. 2）の配管に約3mmの穴があき、水蒸気が噴出
大 阪	平成24年1月11日	ローディング室でトラックの幌を外す作業中に転落	構内搬送用トラックの幌を外す作業中に、荷台（高さ約1.7メートル）から落下し右手を骨折（休業傷害）
	平成23年12月16日 （1月30日判明）	排出源モニタリングにおけるDXNs濃度の自主管理目標値超過	処理施設東棟の排ガスサンプリングの結果、高濃度ベントガス系列排気口の測定値が自主管理目標値（0.1ng-TEQ/Nm ³ ）を超える0.32ng-TEQ/Nm ³ であったことが判明
	平成24年2月1日	VTR回収液を分離回収PCB専用容器に注入後に漏洩	PCBを含有する油を容器に充填した際、ホース接合部のつまりにより空気抜きが不十分で内圧が生じ、ホースを外した際に内部の油が漏洩（約6リットル）
	平成24年3月14日	車載トランス粗解体中に小火の発生	トランス筐体の切断時に発生する火花が内部に残留していた油に着火。消火器にて直ちに消火。
	平成24年8月23日	定検作業中に熱中症発症	作業員が休憩後に作業に戻ったところ、腰から背中にかけて痙攣を発症
	平成24年9月25日	TCB/PCB蒸留塔ボトム循環及びライン閉塞	TCB/PCB蒸留工程の第1塔、第2塔の立上げ作業時に塔底ライン等の閉塞が発生
	平成25年6月30日	炭化物集塵機用送風機軸受け交換作業における右手指被災	送風機軸受部異音確認のために手回しを実施した時、VベルトとモーターVプーリーの間に右手第4指と第5指を挟み被災
	平成25年7月16, 17, 22日 （9月6日判明）	排出源モニタリングにおけるベンゼン濃度の自主管理目標値超過	排ガスサンプリングの結果、①蒸留設備ベントガスA系（0.50mg/Nm ³ ）②塩酸ベントガスB系（0.36mg/Nm ³ ）③水素ガスベントB系（0.69mg/Nm ³ ）のベンゼン濃度が自主管理目標値0.35mg/Nm ³ を超えていたことが判明
	平成26年1月21日	裁断機監視作業中の転倒	横型バンドソーによる切断を操作盤付近で監視中の作業員が後ろを振り向いた際、バランスを崩して転倒し被災

事業名	発生年月日	件名	概要
北海道	平成24年1月6日	液処理エリアにおける洗浄液の漏洩	真空超音波洗浄装置の真空ポンプ冷却ラインのフレキシブルホースのピンホールから洗浄液が漏洩（約5リットル）
	平成24年2月9日	冷水ユニットからの冷媒ガスの漏洩	冷凍機の冷媒（フルオロカーボン407E）が配管のクラックから漏洩（約85kg）
	平成24年2月24日	車載トランス粗解体中の小火の発生	トランス筐体の切断時に発生する火花が内部に残留していた油に着火。難燃性マット等にて直ちに消火。
	平成24年5月4日	コンデンサ解体エリアにおける洗浄油の漏洩	使用済み洗浄液を集液するボックスの出口側の不具合によりオーバーフローし室内漏洩（約35リットル）
	平成24年6月7日	計器用変成器の予備洗浄作業における洗浄液の漏洩	洗浄液の給液ホースを抜液ホースと誤認して外したため室内漏洩（約30リットル）
	平成24年9月4日	減容圧縮機油圧ポンプ下オイルパンへの作動油の漏洩	油圧ユニットポンプの部品の緩みにより、作動油が室内漏洩（約5リットル）
	平成25年3月14日	計器用変成器上蓋切断作業における解体作業員の右人差し指指尖部の損傷	中型切断機での切断作業中に切断物を支えていたところ、手を滑らせて帯鋸刃に巻き込まれ、指先（約1cm）を損傷
	平成25年10月30日	〔増設施設〕スラグ受容器外（スラグ受容器パン）への出滓	スラグ受容器のスラグ受容器パンへのセット確認が不十分だったため、スラグ受容器パン内にスラグの一部（約81kg）を出滓
	平成26年2月25日	〔当初施設〕真空超音波洗浄エリアにおける洗浄液の漏洩	移送ポンプ吐出の逆止弁が内漏れしたため吐出配管の洗浄溶剤がドレンポットに逆流し、ドレンポット窒素ガスシールユニット弁から漏洩（約12リットル）
	平成26年3月14日	〔当初施設〕真空超音波洗浄エリアにおけるストレーナ蓋部からの洗浄液の漏洩	ストレーナのカバー押さえボルトの締め付けが弱かったため、接合部分から洗浄溶剤が漏洩（約1.75リットル）
	平成26年4月15日	〔増設施設〕非常用発電機燃料小出槽供給配管からの重油の漏洩	屋外フレキシブルホースに塩害により直径約0.1mmの孔食が発生し重油が漏洩（約3.15リットル）
北海道増設（工事期間中）	平成24年9月6日	高所作業車からの落下	高所作業車から降りようとした際、ステップを踏み外し、高さ1.3mから落下し、後頭部を打ち、硬膜下出血等を発症
	平成24年11月9日	内部単管足場からの落下	本来使用すべき昇降用梯子を使わずに内部単管足場を使って降りようとした際、足を滑らせ、高さ1.6mから飛び降り、踵を骨折

（参考）

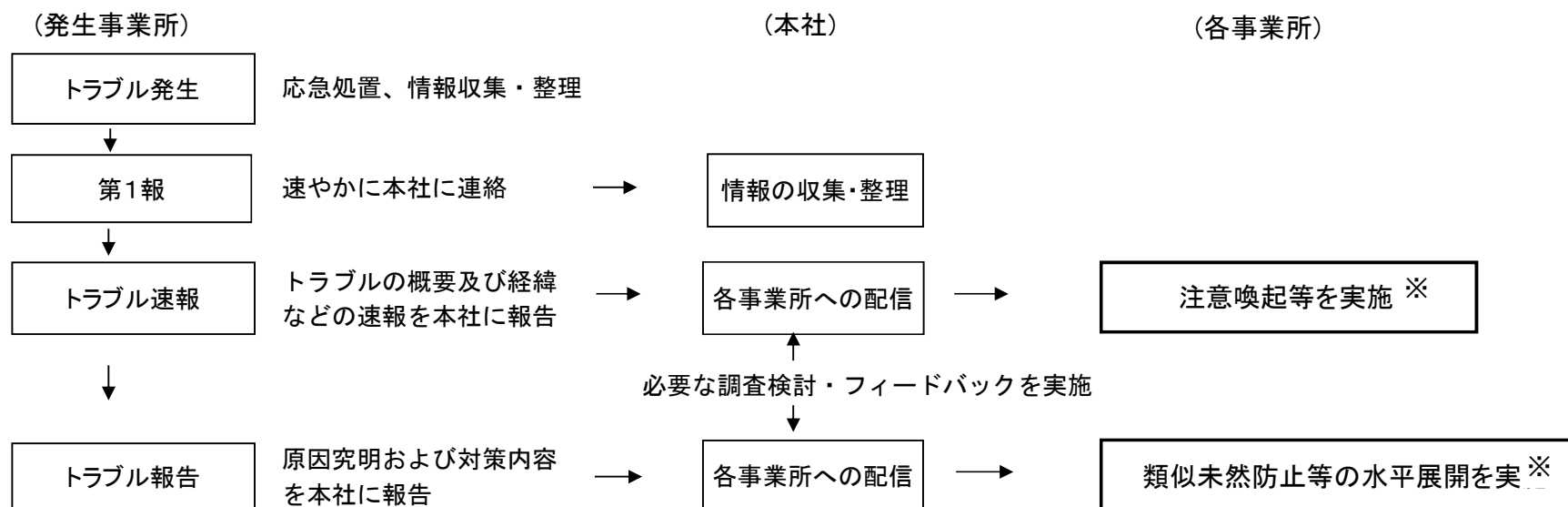
事業名	発生年月日	件名	概要
北九州	平成24年9月22日	2期施設溶剤蒸留設備スラッジコレクタBで蓋部より洗浄液の漏洩	スラッジコレクタB蓋のパッキンが劣化によりシール不良となり洗浄液が漏洩（約20リットル）
	平成25年2月1日	1期施設含浸物2次洗浄装置の熱交換器に接続していた窒素ガスホースより洗浄液の漏洩	熱交換器の閉塞解消のため接続していた窒素を注入するホースが外れ、洗浄液が逆流して漏洩（約10リットル）
	平成25年5月8日	2期施設真空加熱分離装置A号機の排ガス処理装置よりPCB汚染水の漏洩	タッチパネルの誤操作により真空加熱分離装置A号機の排ガス処理装置下部から漏洩（約80リットル）

○トラブル発生に伴う他事業所への水平展開について

●水平展開の実施状況

事業所で発生したトラブル情報は本社に報告され、各事業所には本社より速やかに情報を配信し、類似トラブルの未然防止対策などの水平展開がされる。

●社内の水平展開フロー図



※ 北九州事業所の水平展開については、本社からの情報に基づき、必要に応じ運転会社に対しても情報を共有のうえ、関連する設備、機器又は作業手順等について点検を行い、同様のトラブル事象の未然防止対策を講じることで安全運転並びに適正処理等に役立てております。